

英語コーパス研究会第8回例会

日時 1996年10月12日(土)

会場 追手門学院大学 5号館フォーラム教室

【JR 茨木駅・阪急茨木市駅下車 スクールバス利用 約25分】

ワークショップ 11:00-12:30 《研究者のためのインターネット入門》

講師 西納春雄(同志社大学)

先着30名(予定) 参加費 会員無料・非会員1,000円

(申込は郵便・FAX・電子メールで事務局まで)

受付開始 12:50

開会の辞 13:20 姫路獨協大学 齊藤 俊雄

研究発表 13:30-14:50

1. 「イギリスの高級紙と大衆紙-基本動詞の句動詞について」

東京大学大学院 高見 敏子

司会 梶山女学園大学 深谷 輝彦

2. 「KWIC出力のアルゴリズム」

名古屋学院大学 鈴木 重樹

司会 神戸大学 西村 秀夫

<休憩 14:50-15:05 >

シンポジウム 15:05 -17:40

《インターネットと英語研究》

「インターネットを利用した文献検索と研究情報の取得」

司会・講師 同志社大学 西納 春雄

「研究情報交換のための電子メール利用とメーリングリストの運用」

講師 名古屋大学 杉浦 正利

「WWWページ作成の意義とその研究利用」

講師 東海大学 朝尾 幸次郎

「WWWを利用した研究情報発信をめぐって」

講師 山形大学 岡田 毅

閉会の辞 追手門学院大学 丸谷 満男

《懇親会 18:00-19:30 追手門学院大学 5号館会議室 会費 4,000円》

英語コーパス研究会 (Japan Association for English Corpus Studies)

会長 齊藤俊雄 事務局 657

神戸市灘区鶴甲 1-2-1 神戸大学国際文化学部 西村秀夫研究室

TEL/FAX 078-803-0737 E-mail:  
(E-mail address deleted)

郵便振替口座 00940-5-250586

◆例会当日、入会受付もいたしますので、お誘い合わせの上ご参加下さい（年会費：一般

4,000円 学生

3,000円）。

◆「当日会員」としての参加も受け付けております（1,000円）。

英語コーパス研究会第8回例会レジュメ

◆研究発表

●イギリスの高級紙と大衆紙-基本動詞の句動詞について（高見敏子）

本発表では、イギリスの高級紙 The Times と大衆紙 DailyMirror に

における **make,take** など頻度の高い基本的な動詞を含む句動詞表現を中

心に取り上げる。発表者は、「新聞」という一つのジャンルの中で

異なるスタイルを持つ、イギリスの高級紙と大衆紙の言語の比較に

関心を持っている。比較する観点の一つとして類義表現を考える場

合、その前段階として、語と語の組み合わせによって様々な意味を

持つ句動詞は、語のレベルでは捉えられない表現の多様性を生み出

すものとして無視できない。英英辞典・英和辞典には実に多くの句

動詞が載っているが、イギリスの新聞英語では句動詞はどの程度用

いられ、よく用いられている句動詞はどのようなものなのだろう

か。また、高級紙と大衆紙で句動詞の現れ方にはどのような類似や

相違があるのだろうか。句動詞とほぼ同じ意味を持つ一語動詞があ

る場合、高級紙が一語動詞を、大衆紙が句動詞をより多く選択す

る、という予測ができるが、実際はどうだろうか。本発表では、

**TheTimes** と **DailyMirror** の CD-ROM 等のテキストファイルに **SNOBOL** と

**awk** のスクリプト、**Micro-OCP** を利用して得たデータを用いて、句動

詞の分布の比較を行う。また、結果だけでなく、データを得た手順

についても紹介する。

●KW I C出力のアルゴリズム（鈴木重樹）

十数年前、初めてKW I Cプログラムを入手し、打ち込んだテキストに適用したとき、わたしは猛烈な速度で研究環境が変化していることを実感するとともに、「あのベタ打ちしたテキストがどうやってKW I Cになるのか」と素朴な疑問を覚えた。それ以降、自分の研究環境を整えるためプログラミングを学び、自分に合ったKW I Cも自作できるようになった。今回の発表ではKW I C作成のソース・プログラムを紹介することで上に述べた素朴な疑問に答え、更にコンピュータ中でテキストはどのように保存されているか、複数テキストの行はどうカウントされるか、聖書の物理行と節番号はどうしたら一致させられるか、などを明らかにし、人文学徒がプログラムを書くことの得失を、自分の経験から論じて終わる。

語学的論究の一つもない発表で恐縮ではあるが、それでもフロアの皆さんから「成る程そうするのか」との言葉を頂けることを今回の目標としている。

◆シンポジウム《インターネットと英語研究》

## ●インターネットを利用した文献検索と研究情報の取得

(西納春雄)

現在インターネットを通じて膨大な量の学術情報が提供されている。その内容は、大学・研究機関についての情報、研究動向、論文募集情報、ニューズレター、文献情報、電子テキスト、電子辞書、ソフトウェア、さらには紀要論集そのものにいたるまで、学術研究に必要なあらゆる情報を網羅する。今後あらゆる学術分野でインターネットを通じた情報提供がますます充実していくことは間違いない。したがって、これらの情報を有効に取得し活用することが、研究者にとって重要な課題となっている。本発表では、コーパス研究を念頭に置き、これらの情報についての解説と、研究室から、あるいは書斎から情報を自在に取得する方法を紹介する。これまでワープロとして利用してきたコンピュータは、実は世界につながる情報端末でもあった。ただしそのためには、少しの努力と工夫は必要なことを、あらかじめお断りしておく。

## ●研究情報交換のための電子メールの利用とメーリングリストの運用

(杉浦正利)

本発表では、まず、英語コーパス研究に関連する「corpora」「humanist」「bnc-discuss」「TEI-L」「info-childrens」など複数のメーリングリストを紹介し、実例を示しながら、インターネット上で電子メールによりどのような情報が交換されているかを解説する。次に、メーリングリストという電子メールによる情報交換システムがどのような仕組みで運営されているかを紹介する。「CML」というメーリングリスト管理運営システムを例に具体的な設定方法を含めて説明する。最後に、実際にメーリングリストに参加するときの注意点やエチケットについて述べる。

## ●WWWページ作成の意義とその研究利用

(朝尾幸次郎)

ここ2年間、急速に利用の広がったインターネットはWWWブラウザの普及によるところが大きい。ブラウザを使えば簡単に各

地の情報資源を探索できる。文字情報だけでなく、画像、音声情報が手軽に利用できるという利点もある。ユーザーによってはインターネットとWWWが同義ということも多い。しかし、WWWの本当の意義は分散型データベースという点にある。WWWを使えばだれもが簡単に情報を発信できるだけでなく、世界各地に分散した情報資源にリンクを張ることを通して情報ページを構築できる。研究者にとってWWWの意義は研究共同体の形成にある。WWWを利用することで、世界各地の研究者は情報資源をたがいに利用しあい、共同して研究することが可能となる。これまで研究成果やデータは秘技として秘匿されがちであった。WWWによって研究のあり方は公開、共同利用という方向に大きく変わることになるだろう。

●WWWを利用した研究情報発信をめぐる

(岡田 毅)

文字情報のみの学術ネットワークの世界で、悪戦苦闘したのが一昔前のように感じられる。パソコンレベルで集積していた英文データを解析するためのプログラム開発を、学生諸君の協力を得て開始



したのが6年前である。その後、公開直後の NCSAMosaic を遅いマシンの上で試して、絶句した覚えがある。そして、世に遅れまいと Netscape を使い情報の収集に乗り出した。こちらからも情報を発信しようと、強引にパソコンをホストにして OLP(OkadaLab Projectteam)のホームページを開設したのが2年前である。現在では、UNIX マシン上から安定した情報提供が実現されているが、発信の手法もさることながら、発信すべき内容を、一応のプロジェクト方式で積み上げている。電子化されず、紙の上に印刷された英文の OCR による収集、データベース生成処理、解析処理等を多様なプログラムと、多くの機器を用いて行っている。これに纏わる課題や問題に触れてみたい。